



設計担当者

向山 徹

広島県建築士会、向山徹建築設計室

戸建住宅(専用) | 山口県岩国市

岩国のアトリエ

構造 | 木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 495.41㎡

建築面積 | 143.04㎡

延べ面積 | 149.54㎡

竣工 | 平成29年3月10日

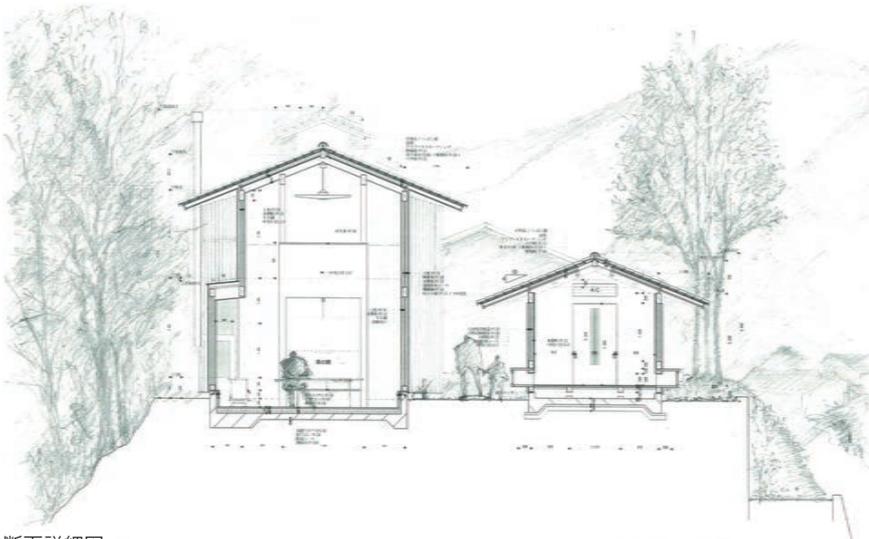


1



2

- 1 北の庭から住居棟を見る。右にアトリエ・ギャラリー棟
 - 2 左手にギャラリー、右手が住居棟、奥に北の庭が見える
 - 3 ギャラリーからアトリエ方向を見る
 - 4 北西外観。手前がアトリエ・ギャラリー棟、奥が住居棟
- 写真…野村和慎



断面詳細図



3



4

選評

作者が述べる如くに、この小建築はこの地方の「みかん倉庫」に発想の基があるようだ。

しかし視ての印象は、より深く遠大である。柳田国男の『海上の道』を引くまでもなく、日本列島の諸文化は南島(沖縄)ばかりか、遠く南太平洋、タイ、インドネシアの常民文化を色濃く継承している。われわれもまた、大学教育により東洋建築史としてその概要は学んだ。しかし学んだことと今の実利生活との距離は余りにも大きく、ほとんど生かす術も無いのが現実であった。作者(設計者)はそのキャリアを民家研究に持ち、通常の消費生活の中に暮らし続ける者とは異なる特徴を持つ。

この小建築の背丈の低さと軒の出の深さに示されたモノはとても重要である。日本列島を取り囲む地球環境は大きく変化していると言わざるを得ない。異常気象と片付けられるものではない。黒潮が悠久とも考えられる地球の自己運動として南方諸島の衣食住を運んだが、現今の列島の住生活に於いても、その巨大な原理性は再認識されるべきだろう。

アトリエ棟の低さ、軒の深さ、そして棟内に取り込まれた内外の区別無きテラスは出色である。わたくしは今年、最高の作品と考えた。

(石山修武)